



西照寺寺報「さいしょう」 第46号

2024年7月20日

発行 浄土真宗本願寺派 西照寺
高岡市吉久2丁目4-40

郵便振替口座 00780-8-8185 西照寺
西照寺ホームページ <http://nisitera.eek.jp>

祠堂永代経 勤修

左記のとおり今年度の祠堂永代経お勤めいたします
お参りくださいませ

おつとめの時間

八月二十五日(日) 午後二時〜

二十六日(月) 午前九時半〜

布教使 麻生 尚子 師 高岡市伏木浄光寺衆徒

西谷山 西照寺

この仏事は、ご先祖を大切にしのぶ皆様の御懇志によって営まれています。
西照寺郵便振替口座などご利用頂ければ幸いです。

しょうしんげ

正信偈のはなし 第十三話

いんどきいてんしろんげ ちゅうかじちいきしこうそう
印度西天之論家 中夏日域之高僧

(印度西天の論家、中夏(中国)・
日域(日本)の高僧)

けんたいしやうこうせしやうい みまうごらほんせいりやうき
顕大聖興世正意 明如来本誓心機

(大聖(釈尊) 興世の正意を顕し、
如来の本誓、機に応ぜることを明
かす)

しやかにようりやうがせん いしゆうじやうみやうなんてんじく
釈迦如来楞伽山 為衆告命南天竺

(釈迦如来、楞伽山にして、衆のた
めに告命したまはく、南天竺(南
印度)に)

りまてしゆだいじしゆうとせ しじのうざいほうむけん
龍樹大士出於世 悉能摧破有無見

(龍樹大士世に出でて、ことごとく
よく有無の見を摧破せん)

(中面に続く)

「意訳」「インドに出られた論家（龍樹・天親菩薩）がた、中国

（曇鸞・道綽・善導）、日本（源信・源空）の高僧がたは、お釈

迦様（大聖・釈尊）がこの世に出られた本意（正意）をあらわ

し、阿弥陀如来の本願（本誓）は末世の私のためのものだと明ら

かにされた、お釈迦さまは、インドの楞伽山において、多くの

人々のために予告された。南インド（南天竺）に、龍樹菩薩

（大士）というお方が世にでられて、「有無の見」をことごとくう

ち破る（摧破）と。」

七高僧

ここからは「依釈段」といわれる正信偈の後半部分です。

釈尊入滅の後、インド・中国・日本と歴史を通して、阿弥陀如

来の本願念仏のお心を伝えてくださった七人の高僧がたのお徳を

讃嘆し、その解釈の要点が述べられています。

七人の高僧がたは、釈尊がこの世に出られた目的は、阿弥陀如

来の本願をお説き下さるためであったと顕かにしてくださった。親

鸞聖人はそういただいております。

別の見方からすると、阿弥陀如来が我々すべてを救うために、

釈尊をこの世に送り出されたともいただけます。

経論釈

佛教の書物は、釈尊の教えが書かれた「経」。インドの代表的なお弟子

（菩薩）が、「経」の解釈説明を書いた「論」。そして、中国や日本の高僧で

「経」と「論」を解釈説明した「釈」、とに分けられています。論を書いた

人を論家、釈を書いた人を釈家とも言っています。

釈尊の告命

七高僧の中で最初に出てくるのが、論家の龍樹菩薩です（一五〇〜二

五〇年頃）。八宗（俱舎、成実、律、法相、三論、華嚴、天台、真言の各

宗）の祖師と仰がれ、第二の釈尊と讃えられた方です。浄土真宗におい

ても祖師の第一にかかげられています。

釈尊は、楞伽仙（現在のスリランカ）という山で説法されたとき、聴衆

に向かって重要な告命（予言）をされました。後の世、南インドに龍樹と

いう私の後を正當に継いでくれる菩薩が出るであろう。そして、「有」と

か「無」とか、誤った見方へのとらわれを、ことごとく碎き破るであろう

と。

実は、このお話は、『楞伽経』に出てきますが、龍樹が入滅した後の

紀元四世紀頃に成立したとされています。親鸞様在世当時このことは

明らかになっていないはずですから、これはいかに偉大な方であつ

たかを、釈尊の予言話しによって、表現しようとしたものかと思われるかす。

有無の見

「有の見」というのは、すべてのものには永遠不変の実態があると固執し、人は死んでも靈魂など何かの形で残るとする見方です。これとは反対に「無の見」というのは、すべてのものはやがて消えてなくなり、何も残らない、人は死ねば無になるという見方です。

この両方が間違っている。釈尊は、あらゆるものは「縁起の道理」によって成り立っている。さまざまな因とか縁、数限りない条件が集まって仮にこのような形(果)になっている。条件が変わればまた違う形(果)になっていく。何か固定不変のものがあるのではない、かといって、何も無いということではない。因縁によって仮に和合し形となるが、因縁によってまた消滅変化していく、「因縁仮和合」の存在といっています。

ところが私達は、確かな存在として私がいる。これは私の命で、私のも(所有物)であるという「自我」を持っています。

仏の智慧を「平等智」、人間の智慧を「分別智」といいますが、そうすると、分別智に生きるとは、損か得か、好きか嫌いか、有るか無いか、対象(物事)を分別して、自分に都合の良い方に執着し、それが

満たされたことが幸せだと追い求めるということになります。しかし、「いのちの道理」(縁起)からずれているために、自分の思い通りにはならず(最終的には死である)、苦しみや不安を感じるようになっていきます。

これは「いのちの道理」(平等智の世界、根源的いのち)からの、「目覚めてくれよ」というメッセージであると釈尊は気づき教えてくださいました。

これは「私の命」(私の所有物)であると思っっている私は確かにいます。しかし、事実はどうなのでしょう。私が造ったものは何一つありません。私の意思でここに生まれてきたわけではありません。他の動植物の命を取つてこなければ生きられない。大自然のめぐみ、心臓一つ自分の意思で動かしているわけではありません。さまざまなつながり、無限なる大いなるものによって「生かされている」としか言いようがないのが私の命の事実です。

私達の日常生活の中でも、皆さんやさまざまのはたらき、支えによって、「生かされています」「おかげさまで」と、御恩や感謝を申すことがあります。ですがそこには、私が「生かされている」という、私の自我(存在)が残っているように思います。さまざまな条件が仮に集まってこういう形をしている。それを私だと思っっているだけで、本来は「無我(私とい

(中面からの続き)

うものほど(ここにもない)」であるとも、釈尊は教えてくださいました。

これらの教えを受け継いだ龍樹は、自己という存在(自性)はもと

も無い。「無自性」である。本来は「空(ゼロ)」である。「縁起・

無自性・空」と押さえ直してくださっています。

そしてこのことに、気づいていくことが私の命の根源的問題の解決に繋がると教えていただきました。
合掌 (文責 前住職)



西照寺「鐘楼堂」修復についての「報告

西照寺の鐘楼堂と本堂は、文化財保護法で規定された「重要伝統的建造物群保存地区」(吉久町並み保存)として、国選定の特定物件に指定されました。

鐘楼堂修復に当たりまして、すでに八割の補助金をいただくことも内定しております。

二割はこちらで負担しなければならぬこともあり、昨年西照寺総代・役員会了承のもと、皆様に「懇志のご協力をお願いしたところ」であります。今日まで、百三十五万円余りの「懇志を賜りました。ここに厚く御礼を申し上げます。

「保存地区の規定」に対応できる施工業者の方にも、すでに前金を支払い済みです。いつでも工事に入れる状況になっています。

ところが、ご承知の通り今年一月一日の能登半島地震です。施工業者の方も多数の仕事を抱え込んで苦慮されているようです。工事関係者の皆様には、なんとか来年度中には完了したいと、施工順番の調整にご尽力いただいています。

工事はいつたいたいどうなっているのか、ご心配の声も多数お聞きし

ました。このような状況で御座いますので、いましばらく猶予を賜りますよう、御報告申し上げます。
合掌

健康おわら教室



基本
毎月第1水曜日
(14時頃～)
場所 西照寺本堂
1人 ¥500
指導 おわら風の会



※佛教讃歌終了後、引き続き教室となります
みなさん、楽しく踊りましょう

??さあ??みんなて歌おう

仏教讃歌

基本 毎月第1水曜日(13時～)
場所 西照寺本堂
ピアノ指導 西田利代美 先生
参加費 ¥300
(光熱費等々)



詳しくは西照寺0766-84-0705までお尋ねください